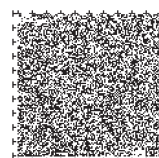


地域の資源を活かした
魅力あふれるまち

基本目標 5



観光・産業・経済



政策 5-1 魅力を活かし、人が集まるまちをつくる

基本目標 5

地域の資源を活かした魅力あふれるまち

施策 5-1-1 観光資源の魅力向上と来訪者の滞在環境の充実

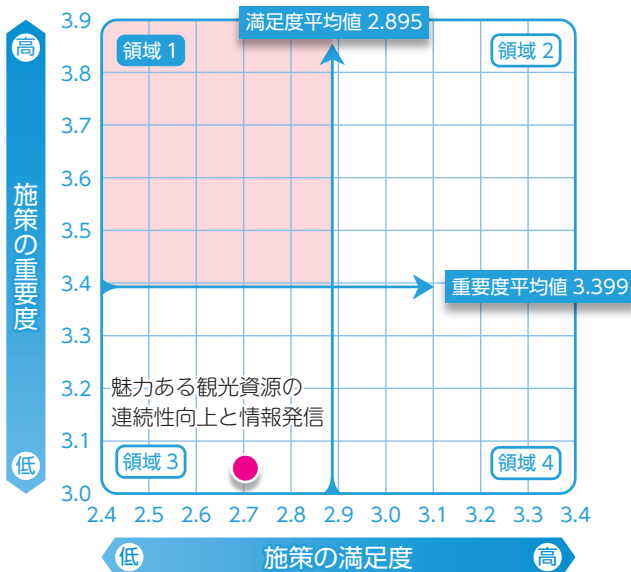
施策の目的

国内外から多くの人を訪れ、春日部の魅力を楽しめるようにすること。

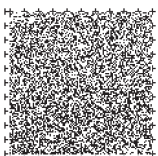
現状と課題

- ①本市は、首都圏外郭放水路、道の駅「庄和」、大落古利根川、日光道中「粕壁宿」、春日部藤まつり、春日部大凧あげ祭り、春日部夏まつりなどの魅力的な観光資源を有しています。近年、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止・縮小や人の移動の自粛などから、観光客数は大幅に減少しており、市内観光の早期回復が求められています。
- ②世界最大級の規模を誇る地下放水路である首都圏外郭放水路の認知度の高まりとともに、市内の観光情報に対する需要の高まりが感じられています。このような中、さまざまな観光資源の魅力を広く国内外に発信して認知度の向上を図るとともに、来訪者が本市の魅力を十分に楽しめるよう市内の観光情報を効果的に案内していくことが求められています。
- ③本市には、桐たんす、桐箱、押絵羽子板、麦わら帽子などの伝統的な特産品や大凧文化、春日部ならではの優れた食品、収穫体験ができる農園といった多様な地域資源があり、これらを観光資源として積極的に活用していくため、変化する観光需要に即した魅力やブランド力を高めていく必要があります。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



首都圏外郭放水路の見学会の様子



施策における取組

(1) 観光資源の磨き上げと回遊性の向上

- ◆本市の特色ある観光資源をさらに磨き上げ、本市への来訪意欲を高めることで、県内外からの誘客を促進します。
- ◆旧宝珠花小学校跡地を活用した（仮称）大風文化交流センターなど、観光資源を活用した施設の整備・充実を図り、来訪者の回遊先としての選択肢を広げます。
- ◆市内に点在する個々の観光資源をつなげ、連続性を持たせることにより、来訪者が市内を回遊し楽しく滞在できる環境の充実を図ります。

(2) 観光情報の充実・発信

- ◆首都圏外郭放水路や道の駅「庄和」、春日部情報発信館「ぶらっとかすかべ」など、市内観光情報の需要が高い施設において、観光情報の充実を図ります。
- ◆市公式ホームページにおける観光情報の充実のほか、関係団体との連携を図りながらSNSや観光PRイベントなどのあらゆる媒体や機会を活用し、本市の観光資源の魅力や地域の旬の情報を国内外に発信します。

(3) 新たな観光資源の創出とブランド化

- ◆国や県、市内の関係団体等と連携しながら農・商・工業といった各産業や、自然、歴史、伝統、文化、アニメなどのあらゆる地域資源を積極的に活用し、観光資源としての新たな魅力を創出します。
- ◆かすかべフードセレクション認定品をはじめとした春日部ならではの食品や土産品の価値を市内外に広くPRし、本市を象徴する高品質なイメージとして市場への浸透を図ることで、地域ブランドの確立につなげます。

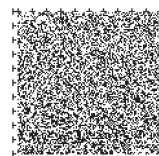
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
観光入込客数	729,789人 (暦年)	2,120,000人 (暦年)	市内の観光施設やイベントなどへの来訪者数を測る指標です。目標値は、新型コロナウイルス感染症拡大以前（R1年）の水準、約189万人から10%程度増やすことを目指し設定します。
「ぶらっとかすかべ」 外国人来館者数	334人	1,780人	本市を訪れる外国人観光客数の増減傾向を測る指標です。目標値は、新型コロナウイルス感染症拡大以前（R1年度）の水準に戻すことを目指し設定します。

SDGs達成に向け市民・地域ができること

春日部の魅力についてSNSなどを通じて発信する。

関連計画

春日部市観光振興基本計画



政策5-1 魅力を活かし、人が集まるまちをつくる

施策5-1-2 身近で活気あふれる商業環境の充実

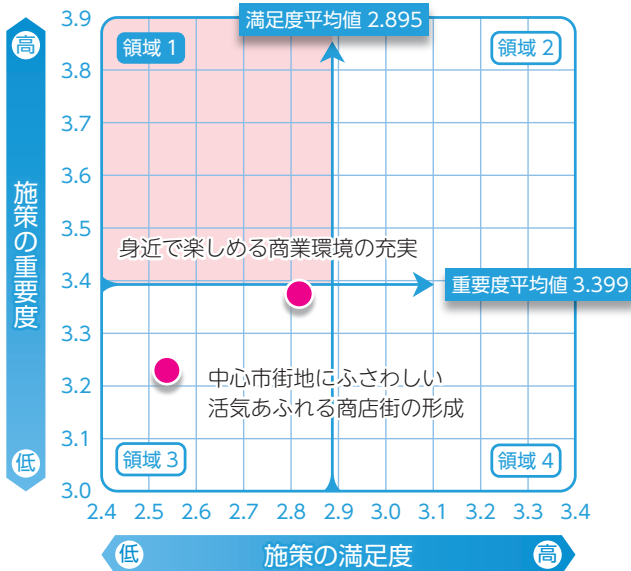
施策の目的

中心市街地をはじめとした、市内の商店街が市内外の消費者でにぎわうようにすること。

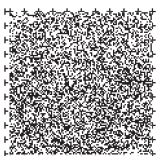
現状と課題

- ①春日部TMOなどの団体や商店街、個店などによる、地域の特徴に応じた主体的で持続的な取組を支援することで、魅力あふれる商店街の維持・形成を促す必要があります。
- ②中心市街地は、春日部駅付近連続立体交差事業を契機として、活気と活力があり、安心して楽しく買い物ができる商業環境を整備する必要があります。また、旧春日部市商工振興センター跡地については、中心市街地の活性化のため早期整備を図る必要があります。
- ③春日部TMOなどの団体や商店街、個店などによる積極的な情報発信を支援するとともに、本市としても、広報紙や市公式ホームページなどを通じ、中心市街地のPRや情報発信を効果的に行っていく必要があります。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



旧春日部市商工振興センター跡地活用施設
建物イメージ図
(あくまでイメージであり、変更になる可能性があります。)



施策における取組

(1) 特長と魅力を生かした商店街の形成

- ◆消費者の交流の創出、滞在時間の延長などを図るとともに、商店街間の連携による回遊性の向上を促す、春日部TMOなどの団体や商店街、個店などによる、地域の特徴に応じた主体的で持続的な取組を支援することで、商店街の活性化を図ります。
- ◆地域産業との連携・協力、地元農産物、伝統工芸品の利活用など、地域資源を生かした魅力あふれる商店街、商店の取組を促進することで、集客力向上を図ります。

(2) 活気と活力を生み出す商業環境の整備

- ◆春日部駅付近連続立体交差事業と周辺の関連まちづくり事業を見据え、それぞれの特長を生かした商店街の形成を進めることにより、回遊性と集客力の向上を図ります。
- ◆共同駐車場や街路灯などの施設整備を支援するとともに、効果的に情報発信を進めるなど、消費者が安心・快適に買い物を楽しめる環境づくりを促進します。
- ◆商店街に見られる空き店舗の有効活用を支援します。
- ◆旧春日部市商工振興センター跡地については、「旧春日部市商工振興センター跡地活用施設整備基本構想・基本計画」に基づき、中心市街地の活性化につながる活用を図ります。

(3) 市内商店街に関する情報発信

- ◆春日部TMOなどの団体や商店街、個店などによる積極的な情報発信の取組を支援するとともに、関係機関との連携、広報紙や市公式ホームページなどを通じ、幅広くPRしていきます。

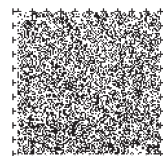
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
旧商工振興センター跡地活用施設整備の進捗率	0%	100%	中心市街地の活性化の推進状況を確認する指標です。中心市街地の活性化に大きく寄与する施設を早期に完成させることを目指し設定します。
一人当たりの年間商品販売額	166万円 (H28年)	174万円	経済センサスより、市民一人当たりの年間商品販売額を測る指標です。目標値は、現状値より5%程度増加させることを目指し設定します。

SDGs達成に向け市民・地域ができること

地元の商店で商品を購入し、地域経済の活性化に貢献する。

関連計画

第3次春日部市商工業振興指針



政策5-2 新たな仕事を生み出し、働きやすいまちをつくる

施策5-2-1 企業誘致や創業支援の推進と就労支援の充実

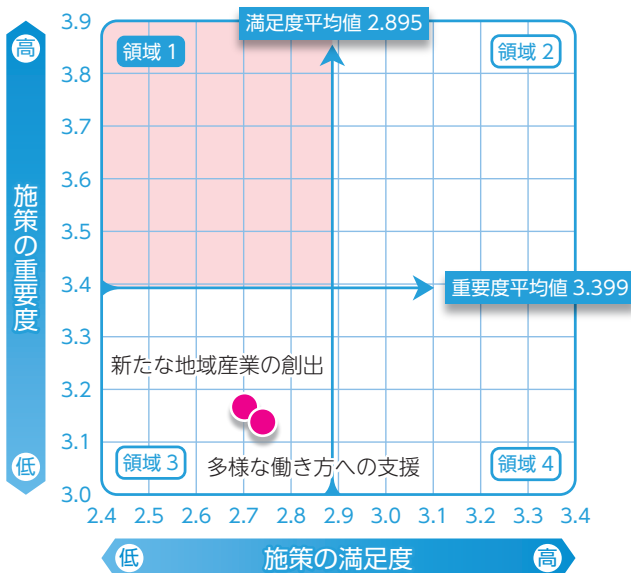
施策の目的

地域の特性を生かした産業の充実と、誰もがそれぞれのライフステージ・スタイルに応じ、その人らしく働けるようにすること。

現状と課題

- ①ポストコロナ社会や産業・都市構造の変化への対応などを視野に、関係機関との連携・協力を進めるとともに、地域の魅力を広く発信し、企業の立地意向や創業希望などの状況に応じた、企業誘致や創業支援の取組を進めることで、企業立地を促していく必要があります。
- ②関係機関と連携し、若年層、高齢者、障がい者、女性、外国人など、多様な就労者の働き方やライフステージに対応した就労を支援する体制の確立に努める必要があります。
また、労働者と求人者のニーズを把握しマッチングさせる必要があります。
- ③本市における勤労者が健康で安心して働けるよう、「中小企業退職金共済・掛金補助制度」などの周知と利用促進に努める必要があります。
また、事業者に対し、テレワークやワーク・ライフ・バランスの推進などを促し、だれもが働きやすい環境づくりに努める必要があります。

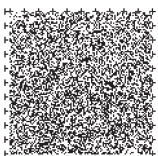
前期基本計画の施策の満足度と重要度



春日部に企業立地を
春日部市は企業立地を応援します！



春日部市の企業誘致における特長



施策における取組

(1) 優良企業の誘致と産官学連携などによる起業促進

- ◆関係機関との連携・協力のもと、地域の優位性を広くPRするなどし、企業の立地意向と土地利用の状況に応じた、企業誘致を進めます。また、春日部駅付近連続立体交差化事業などによる都市基盤や都市構造の変化を意識した企業誘致に努めます。
- ◆関係団体との連携のもと、各種セミナーなどの人材育成、相談受付、フォローアップなど、創業を希望する人を幅広く支援するとともに、各種制度融資の周知と利用促進などに努めることで、地域にねざした起業・創業を促進します。

(2) 就労支援の充実

- ◆公共職業安定所や県と連携し、雇用情報の提供、雇用相談などの充実・強化を図り、若年層、高齢者、障がい者、女性、外国人など、多様な就労者の働き方やライフステージに対応した就労支援体制の確立に努めます。
- ◆公共職業安定所との連携のもと、就職氷河期世代等の非正規労働者、市内企業などのニーズを把握しながら、マッチングを支援します。

(3) 働きやすい環境づくり

- ◆「中小企業退職金共済・掛金補助制度」などの周知と利用促進に努め、市内中小企業の雇用の安定を支援します。
- ◆事業者に対し、テレワークやワーク・ライフ・バランスの推進など、ライフステージに応じた多様な働き方ができる環境づくりを促進します。

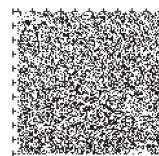
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
有効求人倍率	0.68	1.0	春日部公共職業安定所が公表する値により、就職のしやすさを測る指標です。目標値は、求職者1人に1つ以上の求人ニーズがあることを目指し設定します。
企業誘致奨励金を活用して立地した企業の件数	13件	18件	本市の「企業誘致奨励金」を活用して立地した企業数を測る指標です。目標値は、現状値から5件の立地を実現することを目指し設定します。

SDGs達成に向け市民・地域ができること

市内で働くことができ、働くことで地域産業を活性化させる。

関連計画

第3次春日部市商工業振興指針



政策 5-3 商工業がさかんなまちをつくる

基本目標 5

地域の資源を活かした魅力あふれるまち

施策 5-3-1 活力ある商工業の基盤づくりへの支援

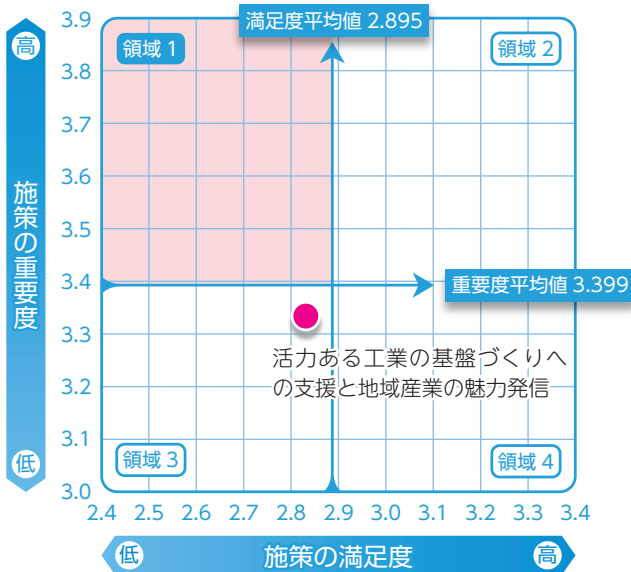
施策の目的

商工業者の経営が安定化し、地域産業や伝統工芸が活性化すること。

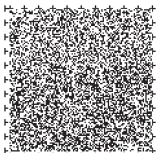
現状と課題

- ①今後も進むことが予想される少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少と慢性的な人手不足への対応が求められています。また、労働生産性の向上やグローバル化やデジタル化に対応するため、電子商取引による国内外販路拡大など、稼げる力を向上させることが重要です。
- ②市内企業の大半を占める中小企業の発展、経営の安定化のため、ICT化などの経営の円滑化や設備投資などに必要とする資金調達を支援することが重要です。
- ③本市の特産品（桐たんす、桐箱、押絵羽子板、麦わら帽子）を効果的にPRし、特産品の振興・販売促進、経営基盤強化を図るとともに、伝統工芸技術を次世代に引き継ぐための取組が必要です。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



特産品
(桐たんす、桐箱、押絵羽子板、麦わら帽子)



施策における取組

(1) 企業の稼げる力を強化するための支援

- ◆市内中小企業が労働生産性を向上させるために必要な先端設備等の設備投資を後押しします。
- ◆関係機関と連携・協力し、E C（電子商取引）を活用して国内外に販路を拡大する事業者を支援します。

(2) 商工団体との連携による中小企業の経営支援

- ◆各種融資制度による支援を進めるとともに、周知と利用促進を図り、市内中小企業の発展、経営安定化を促進します。
- ◆地域経済団体の活動を支援することで、商工業の発展を促進します。
- ◆関係機関と連携し、経営者向けの各種セミナー、後継者などの人材の育成・確保、生産性向上に向けた情報発信を進めます。

(3) 地域産業および伝統工芸への支援

- ◆関係機関と連携・協力し、地域にねざした産業の魅力を市内外に発信します。また、イベントやICT技術を活用するなど、市内特産品の普及育成や販路拡大となる活動を支援します。
- ◆後継者育成の支援、消費者ニーズに対応した商品づくりのための研修会や新商品開発のための事業を支援するとともに、ふるさと納税返礼品として活用し市外へ魅力を発信します。

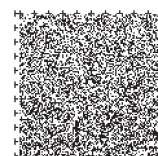
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
市内総生産	5,473 億 6,100 万円 (H 29 年度)	6,164 億 1,700 万円	春日部市統計書より、市内における1年間の経済活動の状況を測る指標です。目標値は、現状値より年2%程度ずつ増加することを目指し設定します。
市民一人当たりの法人市民税の課税額	6,839 円	7,383 円	市内事業者の業績が住民に与える影響を測る指標です。目標値は、過去5年間の平均値まで増加することを目指し設定します。

SDGs 達成に向け市民・地域ができること

桐たんす、桐箱、押絵羽子板、麦わら帽子などの伝統工芸品を使用し、魅力を発信する。

関連計画

第3次春日部市商工業振興指針



施策 5-4-1 持続可能な農業の環境整備

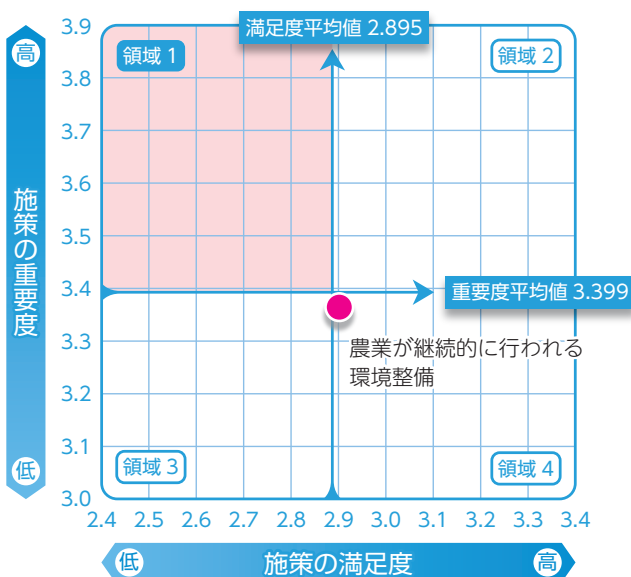
施策の目的

意欲ある農業経営者が安定かつ持続可能な経営ができるように農業の生産・経営基盤を整備すること。

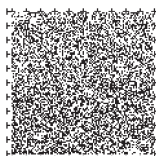
現状と課題

- ①本市においても、農業経営者の高齢化や後継者不足が顕著になっています。農業や農地は、農産物を生産するだけでなく、保水・遊水機能や景観形成など多面的な役割を担っており、持続可能な農業経営のためにも、農業用揚・排水施設や道路などの農業生産基盤の整備や維持管理が不可欠となっています。
また、高齢化などにより農業集落の機能低下が懸念されますが、地域が自主的に行う農道などの維持管理や草刈りなどは、営農環境だけでなく地域全体の環境保全に対し大きな役割を果たしていることから、今後も維持・活性化を図ることが大切です。
- ②農業経営を持続可能なものとしていくためには、農地の集積による効率的な農業経営の促進が重要です。また、ICT技術を用いたスマート農業や、地球にやさしい環境保全型農業の導入を促し、生産性の向上や高付加価値化を図っていくことも必要です。
- ③農業の担い手の育成・確保に向けては、農業後継者や地域担い手の育成と、地域の中心的な担い手や認定農業者の確保が重要です。また、新たに農業を志す人々や、企業の農業参入などを促すことも大切です。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



地域の共同活動による水路維持管理の様子





施策における取組

(1) 農業生産基盤の強化

- ◆狭い農道の拡幅整備や用排水路の整備とともに、老朽化した土地改良施設の計画的な改修に努めます。
- ◆土地改良区や農家組合が実施する用排水路やポンプ施設などの農業生産基盤の整備・改良に対して支援します。
- ◆農道、水路等の維持管理や草刈り、ビオトープづくりなど、地域における共同活動を支援します。

(2) 農業経営への支援

- ◆農地の集積を促し、農業経営の規模拡大を促進します。
- ◆関係機関や団体との連携のもと、ICT技術を用いたスマート農業や、環境保全型農業の導入を促し、生産性の向上や高付加価値化を促進します。
- ◆農業経営者向けの融資制度や、自然災害などのリスクに備えるための保険制度の周知と利用促進に努めます。

(3) 農業の担い手の育成・確保

- ◆地域農業生産の中心的な担い手となる、認定農業者の確保と支援に努めます。
- ◆農業以外からの新規参入者や企業の農業参入など、多様な担い手の確保を図ります。

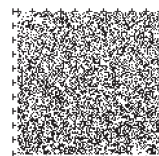
成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
多面的機能支払交付金 交付対象面積	46,922 a	52,000 a	地域における共同活動の広がり測る指標です。目標値は、現状値より5,000 a程度拡大することを目指し設定します。
人・農地プラン作成地区に おける農地中間管理機構への 農地等の集積面積(累計)	3,111 a	20,332 a	「人・農地プラン」の推進状況と農地集積の進捗状況を測る指標です。目標値は、「人・農地プラン」の推進地区における全農地面積の40%の集積を目指し設定します。

SDGs達成に向け市民・地域ができること

地元の農作物を積極的に購入することで、農業を応援する。

関連計画

春日部市農業振興地域整備計画



政策 5-4 安全で、おいしい農産物のあるまちをつくる

基本目標 5

地域の資源を活かした魅力あふれるまち

施策 5-4-2 魅力ある農産物の生産と消費拡大

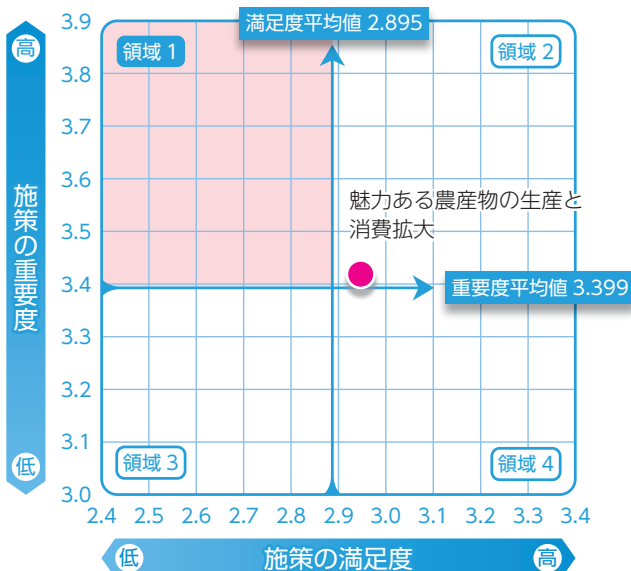
施策の目的

生産者が魅力ある農産物の生産力を高め、消費者の購買意欲や関心の向上により、消費の拡大が図られること。

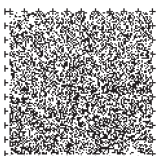
現状と課題

- ①本市では、米・麦などの土地利用型農業、ナス・キュウリ・トマトなどの施設型農業、梨・ブドウ・キウイ・イチゴなどの果樹の観光農業や、花きなどの生産が行われており、今後も農業振興団体の活動支援などを通じ、産地の形成を促すことが重要です。
- ②大消費地の首都圏近郊に位置し、周辺に大勢の消費者を抱えているなどの本市の特性を生かし、農商工連携による6次産業化などを通じた農産物の新たな魅力やブランドづくりなど、消費者のニーズも踏まえた戦略的な農産物づくりを支援することが大切です。
また、市公式ホームページやSNSなど多様な媒体を用いながら、本市農産物に関する魅力的な情報を発信し、市内外での認知度の向上や販路の拡大につなげることが大切です。
- ③イベントなどさまざまな機会をとらえ農業に触れる機会を設けることにより、本市の農業に対する市民の理解を深めるとともに、地産地消を促す必要があります。

前期基本計画の施策の満足度と重要度



米粉を活用した地域ブランド創出に向けた協定の締結



施策における取組

(1) 地域や生産者団体の特性に応じた産地形成の促進

- ◆農業振興団体の活動や種苗、薬剤の共同購入、必要な設備・機材の整備などを支援し、産地形成を促します。
- ◆共進会開催と表彰を通じ、生産意欲の向上と栽培技術の向上を図ります。

(2) 戦略的な春日部産の農産物づくり支援

- ◆関係機関や団体との連携のもとに、生産者と事業者・消費者のニーズをマッチングしながら、生産者が戦略的な農産物づくりに取り組めるよう支援します。
- ◆「春日部甘熟梨」に代表される付加価値の高いブランド農産物や、質の高い農産物づくりに取り組む認定農業者などを支援していくとともに、本市の水田環境に適した農業振興を図るため、米粉を活用した新たなブランドづくりの構築に努め、生産者を支援します。
- ◆本市の農産物に関する魅力的な情報を、市公式ホームページやSNSなど多様な媒体を用いながら発信します。

(3) まち全体で支える農業の魅力向上

- ◆イベントやマルシェ、農業祭などを通じ、生産者、事業者、消費者がふれあえる機会を設け、市民・来訪者の関心を高めます。
- ◆市民生活に身近な都市農地を保全し、農地や農業に関する市民の関心を高めます。
- ◆農産物の地産地消や農業体験などを促し、地域で春日部市の農業を支える機運の醸成に努めます。

成果指標	現状値 (R3)	目標値 (R9)	説明
地元農産物を購入している市民の割合	65.2%	80.0%	市民意識調査より、市民の意識を測る指標です。目標値は、現状値より年3ポイント程度ずつ増加することを目指し設定します。
農業産出額	28億2,000万円 (R2年)	28億2,000万円	生産農業所得統計より、農業の現状を測る指標です。目標値は、現状値を維持することを目指し設定します。

SDGs達成に向け市民・地域ができること

地元の農作物を積極的に購入し、地産地消に取り組む。

関連計画

農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想

